



市立博物館で

市立博物館のあゆみ

昭和30年4月、旧大船渡町役場（大船渡町字笹崎）2階に各種資料を保管したのが始まりです。
昭和57年7月に市制30周年を記念し、周辺環境と調和した自然に親しみながら学べる場として、碁石海岸内に開館しました。常設展示テーマを「大船渡 その海と大地」とし、海に育まれ歩んできた当市を、地質・生物・考古・民俗・歴史の各分野から多面的に紹介しています。展示物の公開はもとより、気仙地域の貴重な資料を収集、保管する役割を担っています。

地質展示室 大船渡 大地を育んだ海

今年3月、日頃市町の地層から日本最古の植物化石が発見されたことは、皆さんも記憶に新しいのではないのでしょうか？これは今までの記録を1,000万年以上さかのぼる発見でした。
大船渡市の地質は、古いもので約5億年前のものになります。古生代・中生代すべての時代が連続して見られるのは、全国でも大船渡市だけです。この展示室では、地層をはじめ、大船渡の自然について学ぶことができます。

化石

クサリサンゴ★シルル紀

市内で発見された古生代のサンゴのなかまの化石です。88年前、日頃市町でこのシルル紀の化石が発見されたことで、当時の日本で知られていた最も古い地層であると分かりました。



巻貝★石炭紀

市内の山中では大型の巻貝化石も見つかります。発見された場所が太古の昔に海だった証拠であり、長い年月をかけて今の大船渡が形づくられていることを感じさせてくれます。



左端の地質時代年表のどの時代の化石なのかが、名前横の★の色で調べられます。

さんようちゅう 三葉虫★デボン紀

誰でも一度は名前を聞いたことがある化石の代表ともいえる生物で「化石の王様」とも呼ばれています。大船渡の地名に由来する名前が付いた種類の三葉虫もいます。

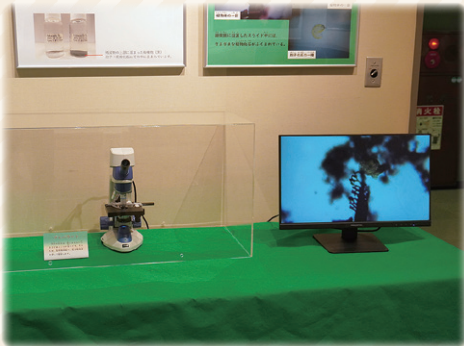


シダ植物★白亜紀

市立博物館がある地域一帯の地層は、恐竜がいた白亜紀に形成されました。当時は海底でしたが、陸地に生える植物の化石が見つかるため、陸地からあまり離れていなかったことが分かります。



日本最古の植物化石



日頃市町樋口沢周辺の中里層とよばれる化石産地から発見された、前期デボン紀(約4.1～3.9億年前)のヒカゲノカズラ類などの胞子化石です。これまでは、後期デボン紀(3.8～3.6億年前)の植物化石が日本最古のものと考えられていましたが、今回の発見によって約1,000万年以上さかのぼりました。
大地の成り立ちと植物の歴史をひもとく、非常に重要な資料となります。
※7月7日(日)まで館内特別展示室で特設展示を開催中です。

お宝発見！

見て、聞いて、
触って学べる大船渡

…見る
…聞く
…触る

大船渡では、約4億年前の化石や、縄文時代の土器、土偶などの学術的に貴重な資料がたくさん見つかっています。これらを見られるのが市立博物館です。館内では、映像を視聴したり、展示物を触ったりして大船渡の自然と文化を体験できます。市立博物館で、大船渡の“お宝”を発見してみませんか？

▶問い合わせ先＝市立博物館（☎29・2161 FAX29・2162）

考古民俗展示室 海に幸を求めて 海をめざした10,000年

大船渡の大地に人間が登場すると、海に幸を求めた人々によって、独自の文化が育まれました。市内には国指定史跡跡ノ浦貝塚、下船渡貝塚、大洞貝塚をはじめ、縄文時代の遺跡が数多くあります。この展示室は、かつての大船渡の生活の様子や、文化、信仰について学ぶことができます。

土偶



気仙地域の縄文遺跡から出土した土偶。作られた時代によって、さまざまな表現が工夫されています。



大洞式土器



気仙地域で出土した縄文時代晩期の土器です。大洞式土器の特徴である曲線的な模様が観察できます。



漁の道具



縄文時代の道具を茶色の台座に、現代の道具を白い台座に乗せて比較展示しています。材質は違いますが、形や機能はよく似ています。



吉浜のスネカ



異形の姿で訪れ、人々に幸福をもたらす「来訪神」のひとつ。小正月の晩に、地域の家々を訪れます。国指定重要無形民俗文化財およびユネスコ無形文化遺産に登録されているスネカの装束や面の意匠をじっくりと観賞できます。



荒れ狂う海 津波



東日本大震災をはじめ、これまで大船渡に襲来した津波に関する資料や、チリ地震津波の映像が閲覧できます。

